

令和4年度生野区区政会議(第2回くらしの安全・安心部会)

主なご意見等(要約)と区の考え方、対応

開催日:令和4年10月31日(月)

場所:生野区役所6階 604・605会議室

ご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>生野中学の2階が避難所になっているが、。現在工事中で避難場所が分からない。どこの教室に避難すればいいのか早く決めてほしい。</p>	<p>避難場所や備蓄物資の配置など具体的な避難運営については地区防災計画などにより地域において決定いただくこととなりますが、区役所としてもそれら地域における防災活動をしっかり支援してまいります。</p>
<p>10/30に防災訓練を実施した。当初区役所から備蓄倉庫にどんなものが入っているか説明を受けたが、久しぶりで忘れていた。頻度を上げて実施する必要があると感じた。</p>	
<p>先日の台風の時に、自主避難者に毛布はあるが、水は各自持参となっていた。雑魚寝となるので、災害の時にどこまで準備してもらえるのか聞きたい。</p>	<p>コロナ禍の前では本市として自主避難を勧奨していましたが、コロナ禍で感染リスクがあることから、大きく方針変換をし、現在は在宅避難や分散避難を推奨していることから、直近の台風では、区役所のみを自主避難施設として開設し、避難者には、毛布と水を配りました。 ただし、大きな災害であれば、それぞれの小学校等が避難所になります。また、小学校の備蓄倉庫には、毛布、水、アルファ化米や簡易トイレの備蓄しています。なお、寝床につきましても、生野区では簡易ベッドとして民間事業者と段ボールベッド提供の協定を締結しています。</p>
<p>災害時にホテルなどが使えると聞いている。食料についても食品メーカーと協定しているのかも教えてほしい。</p>	<p>生野区では「ファイブホテルOSAKA」と災害時における連携協定を結んおり、災害時には、空き部屋を避難所として開放いただけます。食料については、市内各所にある備蓄倉庫には水や食糧を備蓄しており、運送業界とも提携を結んで、必要な避難所へ配送されることとなります。また、大阪市全体で食品メーカーと協定を結んでいることから、災害時に飲食料品などの物資の提供いただけることとなっています。</p>
<p>11/23と26に旧生野小学校で防災リーダーの防災訓練が実施される。旧生野小学校は、跡地利用後も防災拠点としてこのような訓練は続けていくのか。</p>	<p>生野区西部地域の学校再編により閉校となった学校跡地も、地域の重要な防災拠点であることには変わりはありません。事業者が学校跡地を活用するにあたり、引き続き避難所としての使用や地域の防災訓練等が実施できるようにすることを条件としています。 なお、生野小学校跡地については、来年度から事業者が管理する予定ですが、今年度は区役所が管理していますので、今回、空いている施設を使用して、生野区全体の防災リーダーの研修を実施するものです。</p>
<p>生野区の特徴(高齢化や多国籍)を踏まえて、多様なニーズに備えて、生野ならではの避難に必要なものなどのイメージをビジョンにしていっていただけたらよいのでは。</p>	<p>やさしい日本語やipadを用いた多言語対応、指差し確認ボードなどを活用した避難所における多言語対応のほか、高齢者等で介護や障がい等により避難に支援が必要な方に関しては個別避難計画の作成をすすめており、引き続き生野区の地域特性を踏まえた支援を行ってまいります。</p>
<p>若い人へ自転車の無灯火・二人乗りへの注意喚起や左側通行の徹底してほしい。</p>	
<p>大阪は自転車の違反で講習を受ける人が一番多い。違反講習を受けずにすむように大人向けの自転車マナーの講習会や啓発周知が必要。</p>	<p>自転車マナー向上に向けて、区内商店街のアーケードに大きな吊り下げ型の啓発のぼりの掲出、自転車啓発のオリジナル動画を作成し、区役所1階ロビーで放映やYouTubeで配信するなど取り組んでいるところですが、引き続き地域や生野警察署等と連携し、啓発に努めてまいります。</p>
<p>高校生や大学生の若い人がイヤホンをしながらかやスマホを見ながら自転車に乗っていたり、通学路などをすごいスピードで走っているの、若い人への自転車の乗り方の啓発があればと思う。</p>	

ご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>歩行者用の信号が無いところも多いので、歩行者信号の設置やカーブミラーの設置をしてほしい。</p>	<p>歩行者用信号やカーブミラーの設置にあたっては様々な条件があるため、設置可能かどうかも含め、具体的な箇所を特定いただければ、可能な限りとりうる安全対策について、警察や本市関係機関とも連携して検討してまいります。</p>
<p>ヤングケアラーや子どもの貧困については家庭の事情がついてくる。単身世帯が増えていく時代背景もあり、学校もなかなか介入できないし地域もかわれない。民生や行政がかかわってもらえたらと思う。</p>	<p>生野区では、すべての子どもが笑顔で暮らせるようにみんなで子育てできるまちをめざし令和2年3月に「生野区まちぐるみ子育て宣言」を行いました。 「つながりの中で子育てができるまち」「いろんな団体や企業や個人の力を集めて生野で子育てする家庭を応援するまち」をめざしています。 まわりの人が気付き、声をかけ、手を差し伸べることで、ヤングケアラーが「自分は一人じゃない」「誰かに頼ってもいいんだ」と思えるよう、行政、学校、団体、地域が、それぞれの立場で、それぞれがつながり、関わることで、子どもが安心して暮らせて可能性を伸ばせるまちに向け、取組を進めてまいります。</p>
<p>ヤングケアラーは18歳くらいまでとイメージしやすいが、実際には、働いているが家族の介護をしている。何らかのケアが働く上で必要。制限や制約あるいは進路就職選択への影響も多大であるとも言われている。本人の支援もあるが、事業者の側が理解して受け入れていく環境を進めていくことが必要。貧困ともつながり深い。</p>	<p>一般的に18歳までがヤングケアラー、それ以上を若者ケアラーと称しています。(一般社団法人日本ケアラー連盟HP) 大阪市では国の動きに合わせ、ヤングケアラー支援をすすめているところです。 なお、18歳以上の若者からくらしや就労のご相談があれば、生活の困りごとや経済的なことなどについての悩みに寄り添い、一緒に解決に向けたプランを作成し、安定した生活へのサポートを行っている「くらしの相談窓口いくの」をご案内しております。</p>
<p>貧困の連鎖を断ち切る支援は、子どもに対する支援が中心になっている。親の貧困をどう解消していくのかの議論が見られない。福祉という観点では弱いように思うので、検討してもらえたらと思う。</p>	<p>厚生労働省が自治体に指示している「貧困の連鎖防止の取組」では「生活困窮者の次世代支援」と「高齢や障がい等により受入先がない矯正施設入所退所者の地域社会への復帰支援」の2点を主な目的とし、「生活保護世帯などへの養育相談、学習支援等」と「矯正施設退所者等の地域社会への定着支援」を「課題への対応」として取り組むこととしています。 ご意見を踏まえまして、2つの目的に共通の対象である「生活困窮者等」の支援をビジョン本文中『◆施策展開の方向性① 真に支援が必要な方や課題のあるすべての方への隙間のない支援』で明記しております。</p>
<p>人権尊重・多文化共生で、外国人住民のサポートや環境をよくしていこうとあるが、同時に日本語を母語とする人や日本文化を母文化としている人々が、様々な背景を持っている市民と良い関係性を作っていくためには変化がなければいけない。マジョリティ側もどうかかわっていくのが求められる。生野区は、長い歴史の中でマジョリティ側もいろんな背景を持つ人と付き合う力を蓄えていて、非常に進んでいると思っている。文化・母文化を強くして継承していくと、限界的な部分の課題を掘り出し検証していくと言ったあたりがビジョンで見えてくればと思った。</p>	<p>人権尊重・多文化共生において、外国人住民だけでなく、日本語を母語、日本文化を母文化とする大多数の住民の方々への啓発も非常に重要なアプローチであると認識しています。ビジョンに掲げる「異和共生」の考え方のもと、様々な機会をとらえて、周知啓発に取り組んでまいります。</p>
<p>面白いこと、おいしいこと、役に立つこと、ためになることなど、生野区の魅力を役所が個別に発信することは難しいかもしれないが、何とか区の魅力を発信できないだろうかと思う。</p>	<p>生野区のまちの特色を活かした魅力向上は区役所としても重要な視点・アプローチと考えています。 また、そのためには、行政だけでなく地域住民の方々をはじめ、企業や専門家の方々などさまざまな力が必要となってきます。 公民地域それぞれの持つ強みを活かして大きな力となることで、生野区のまちを効果的にプロモーションし、まちのブランディングへとつながっていきます。 2025年の大阪関西万博の開催を契機に、地域経済の活性化を区政の柱のひとつとして、まちの魅力とにぎわいの創出に取り組んでまいります。</p>